

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本大学60周年記念棟	階数	地上5階、地下1階
建設地	神奈川県藤沢市亀井野1866	構造	RC造
用途地域	第一中高層、第一住居、他	平均居住人員	2,800 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	1,800 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年1月 予定	評価の実施日	2012年5月25日
敷地面積	23,846 m ²	作成者	株式会社 類設計室
建築面積	6,002 m ²	確認日	2012年5月25日
延床面積	19,688 m ²	確認者	株式会社 類設計室



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
参照値
建築物の取組み
上記+ 以外の
オンサイト手法
上記+
オフサイト手法

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 4.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 活力が高まるコラボレーション創発拠点 ●協働・交流環境の創出 - 先生が近い横長型講義室、能動的学習スタジオ、対面重視の階段型の学生ホール ●安全、安心、和みの居場所づくり - オープンスペースネットワーク、和みの場づくり、災害への対策 ●生物資源科学部らしいキャンパスづくり - 自然環境が顔になるキャンパスづくり、協働型の省エネ建築		その他 ・風害シミュレーションを行い、既存高層建物の風害を抑える建物配置としている
Q1 室内環境 ・隔壁遮音性能をDr-4.0とし、講義室の音環境に配慮 ・講義室は深い庇を設置し、複層ガラスとすることで日射遮蔽性能を向上 ・大講義室は、居住域の上下温度差の少ない床吹出方式としている	Q2 サービス性能 ・清掃・メンテナンスが行いやすく維持管理機能の確保において、充実した取り組みを行っている ・建築基準法上に定められた25%耐震性能を有している	Q3 室外環境(敷地内) ・屋上緑化、壁面緑化、ビオトープ、連続したオープンスペースをつくり、敷地周辺の生物環境との連続性に配慮した環境計画を行っている
LR1 エネルギー ・PAL低減率、ERR値を高め、環境負荷が少なくエネルギーミニマムな計画としている ・太陽光発電パネル(6.8kw)を設置し、自然エネルギーの変換利用を行っている ・クール&ヒートレンチを採用し、外気負荷の低減を図る	LR2 資源・マテリアル ・省水型機器の採用、雨水利用を行い、水の省資源化を行っている ・キャンパス内の間伐材を利用し、床材等に活用している ・有害物質を含有しない建材を採用している	LR3 敷地外環境 ・地表面や屋根を緑化することで、敷地外への熱的影響を低減している ・管理車両の確保や駐車場の導入路を工夫し、周辺道路への渋滞緩和を行っている

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された!